公民館の実践紹介③

興除公民館

「防災語ろう会」で学び合う仲間と共に

防災を“自分事”とするための第一歩踏み出す

岡山市立公民館の防災学習事情

平成23年3月の「東日本大震災」以降、全国的にも防災への取組が大きく進む中、岡山市の公民館の防災学習も多様な内容に変わってきました。身の回りの準備物だけでなく、ハザードマップを利用したDIG※1や避難所運営を考えるHUG※2など、より具体的に、災害時の状況が想像できるものになっていきました。また平成24年度より「防災キャンプ推進事業」が始まり、住民同士が連携する中に公民館も加わって、様々な手法で学習機会の提供を行ってきました。

一方で、岡山市では災害時の地域住民同士の助け合いを推進するため、町内会に自主防災組織を結成する流れがありました。西日本豪雨災害に見舞われた翌年の平成31年度（令和元年度）には自主防災組織の設立100%を目指す方針が打ち出され、市内の多くの町内に自主防災会が生まれましたが、具体的に何から始めればよいのかという課題が残りました。

防災について、語ろう！

実際に自主防災会を機能させるためには、どんな取組をすれば良いのでしょうか。災害とひと言に言っても様々なものがあります。そして住んでいる地域の状況で、被害の様子は一人一人違ってきます。「私の住んでいる辺りではどんなことが起こるのか」「何を備えておけば良いのか」「避難のタイミングはいつ？」。そんなことを話し合い一緒に考えるために、令和2年4月、興除公民館に「防災語ろう会」という学びの場ができました。

この会には、前年に実施した防災講座に参加した人や、地域で防災活動をしている人々に声をかけ、口コミで人の輪を広げながら現在20名ほどの人が集まっています。情報交換や相談等何でもありの会にしたいと、立場や性別、年齢や住んでいる学区にこだわらず、40代～70代の市民（男性が若干多い）が集まっています。また、メンバーの中には町内会長や民生委員、自主防災会の役員を務めている人もいます。地域で率先して共助に携わる立場のこの人たちが防災に関して頭を痛めていることは、自助が地域に浸透していないことでした。そこで、この会で取り上げる最初のテーマは「自助」と決まりました。

学び合いから課題発見へ

「防災語ろう会」は、毎月第1土曜日の午前中に、誰でも、いつからでも参加できるというスタンスで実施しています。これまで、避難準備物等の検討、学校での防災教育の実際、干拓地である興除地区の内水氾濫や、それに伴うマイ・タイムライン※3の考え方、避難所運営の体験談、避難の見極めに役立てるための気象の学習などを進めてきました。

その間、毎年8月末に実施している東畦学区防災訓練と、岡山市防災訓練（於興除小学校）が相次いで行われ、長年市民主体で行ってきた訓練（東畦）と、行政主体で行った訓練（興除）が2日続けてあったため、それらを比較しながら今後の課題を出し合うことができました。

その土地の状況に応じた生きた防災学習が必要

今後災害を自分事として考えるには、通り一遍の学習内容では市民のニーズに応えられなくなることが考えられます。この土地だからこそ起こるだろう被害を想定し、だから今自分にはどういう学びが必要なのかを考えることが求められています。

この「防災語ろう会」では、様々な市民が疑問や意見を自由に出し合う中で、学んだ内容を自分の町内の会議で伝えたり、仲間同士での学び合いの材料に使ったりという動きも生まれてきています。また公民館の別の防災講座のアシスタントを務めるなど、学びをさらに深めようとするメンバーや、「こんな情報が皆に配れないだろうか」と、資料を見つけてくる人もいます。そういった中から、防災を学び合う仲間と共に、やがては主体的に、その土地ならではの防災の取組を考え、実践力を身に付けることへとつながるのではないでしょうか。

自分の住まう地域で安全安心に暮らすためにも、「防災語ろう会」のような自助意識をしっかり持った市民とともに公民館も学び、災害に強い地域づくりの実現に努めていきたいと思います。

※1 災害(Disaster)、想像力(imagination)、ゲーム(Game)のこと。参加者で地図や図面を囲み、災害リスクをイメージし、予防策や対応策を考える参加型図上演習。

※2 避難所運営ゲームのこと。英語で「抱きしめる」という意味も含んでおり、避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられたもの。

※3 台風の接近や大雨で河川の水位が上昇する時、自分自身がとる避難に備えた行動を、一人ひとりがあらかじめ決めておくもの。